

にむさき事どもして、人のしらぬ世の費也。

〔我おもしろ〕下酒樽記

貧乏陶に足る事を知るは、貧くしてへつらふ事なきにあたり、中下戸の内の神酒陶は二ヶ月

を越て酔となり、略下

〔羨方明記〕五酌之事

徳利用法

一すゞの酌之事、すゞの底を兩手にてか、へ候て參する事もあり、但すゞに依べし、夏は下に置、手をかけ候てよし、其故はあた、まりなど入ざる心得なり、

〔臨時客應接〕銚子にても、間德利にても、折々水にて濯がねば、酒の味ひを損ずる故心付べし、

〔親俊日記〕天文十一年八月十日戊子、淵田入道後家德利一持來之、

〔梵舜日記〕慶長十七年十二月廿四日、次禰宜和泉シャウチウ酒一德利持參也、

〔守貞漫稿〕後集「酒食類」

江戸近年式正ニノミ銚子ヲ用ヒ、略ニハ爛德利ヲ用フ、爛シテ其儘宴席ニ出スヲ專トス、此陶形近年ノ製ニテ、口ヲ大ニシ、大德利口ヨリ移シ易キニ備フ、銅鐵器ヲ用ヒザル故ニ味美也、又不移故ニ冷ヘズ、式正ニモ初メノ間、銚子ヲ用ヒ、一順或ハ三獻等ノ後ハ專ラ德利ヲ用フ、常ニ用之故ニ、銅チロリノ爛酒甚飲難シ、大名モ略ニハ用之、京坂モ往々用之、

〔臨時客應接〕間德利のはかまの箱なくば、盆の上に置べし、

〔鶉衣〕前篇下名德利説

あるはらろりといひ、間鍋といひ、前後左右のむつかしきありて、弦によそほひ袴をかけて、實は心のとけざるかたもあるべきに、略下

〔蜀山百首〕雜二十首

袴